

# 公的 支援

## 里地担い手への支援

地場産品の開発と流通、販売拠点を設けることへの支援は、行政の重要な役割です。長期的に安定した里地づくりを進めるには、産品の地域内自給の推進と、地域の特性に応じた産品開発を行うことが、生産流通コストの点からも有効です。

事例 <sup>みなまたし</sup> 熊本県水俣市

水俣市では、環境と健康に配慮したものづくりに取り組む人達に「環境マイスター」の称号を贈り、環境と健康に良い取り組みを振興しています。



環境マイスター・無農薬のみかんづくりを行う農家

### 環境マイスター

環境マイスターは(1)水俣市在住者(2)環境や健康に配慮したものづくりを支える職人(3)人だけではない多くの生物と共存し、安心安全で環境に負荷の少ないものづくりを展開している農林水産業等に従事している人、と定められています。技術だけでなく環境と健康への配慮に加え、地域への貢献まで認定の対象にしています。

### ものづくりへの付加価値

環境マイスター制度の創設により、環境に良いものづくりとその生産品の紹介、土産品や記念品への使用、環境に良いものづくりの指導者としての人材活用、対外的なイメージの向上などが図られました。

### 環境配慮へのこだわり

環境マイスター達のものづくりは、茶、和紙、イリコ、みかん、畳など様々です。共通しているのは、環境を汚せばそれが自分に返ってくる、環境に配慮するからといって品質は落とさない、というこだわりです。



環境マイスター・無農薬栽培のイグサを伝統的技法で加工するたたみ職人



環境マイスター・無添加のイリコをつくる漁業者

# 都市近郊の里地づくり

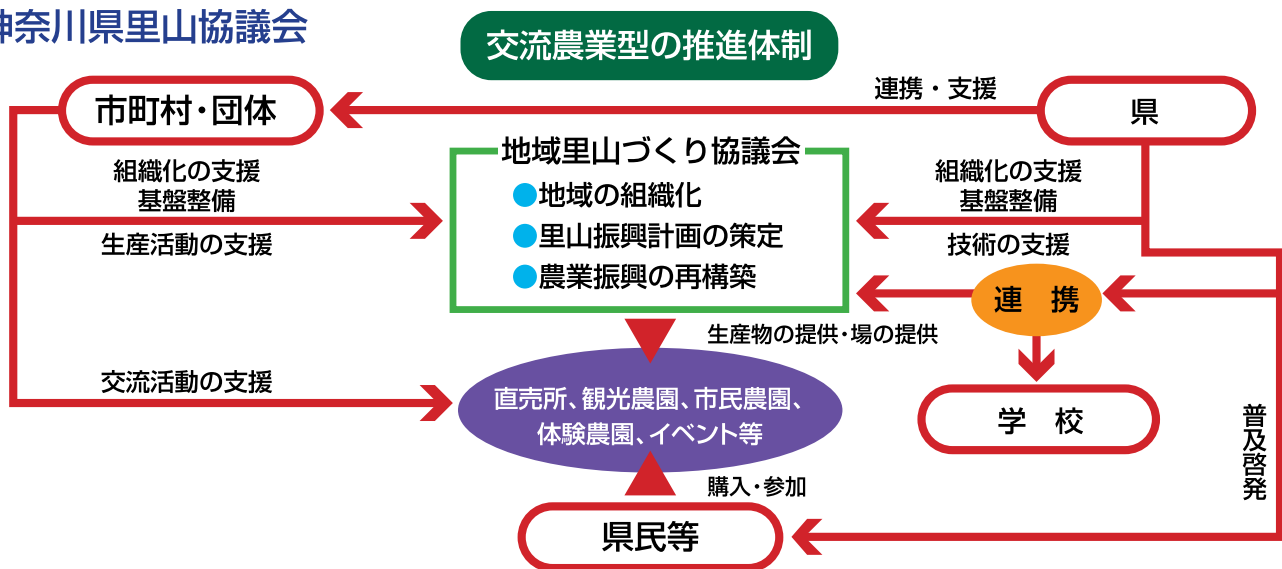
都市近郊の里地環境は、近郊農家により管理されてきたもので都市住民の憩いの場所として高く評価されています。しかし、都市住民が立ち入ることで、農地と農地周辺地域を踏み荒らす結果になることもあります。また、環境負荷のかかる開発や不法投棄などの課題も多い地域です。

事例 神奈川県

## 里山協議会

神奈川県では、県として21世紀の里山づくり構想を策定し、農村集落をまるごと保存する計画を立案しています。地区の特徴に応じて、生産振興型、交流農業型、市民協働型の3タイプに分けて、地元の意向を核に協議会を設け、保全しながら振興を図るなどの構想を検討中です。(神奈川県環境農政部)

### 神奈川県里山協議会



事例 神奈川県横浜市

## 市民の森制度

神奈川県横浜市では、里山の土地所有者と10年以上の使用契約を結び、市民に開放することで、固定資産税を減免し、奨励金を支給する制度を設けています。里山の管理は「市民の森愛護会」を組織し、市民ボランティアを育成しつつ管理する方法を進めています。(横浜市緑政局)



市民の森でボランティアを育成

横浜市では…

里地保んに協力する土地所有者には税の優遇措置

